

# JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2025 No.24

## JACET 関東支部ニュースレター第 24 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口 高領 (秀明大学)

支部長を任せていたのでから、私の任期は 2025 年 6 月の総会までとなりました。この 1 年 だけでなく、2 期 4 年間を振り返ります。

### 【2024 年度】

ここ 1 年も会員のみなさまへさらにできることはないかと考えてまいりました。そのためにはみなさまのご意見が必要と考えて、今年度は関東支部大会だけでなく、お尋ねする項目を少し増やしてアンケートを実施しました。今回も、巻頭言に、このアンケートの結果の概要をお知らせします。

実施時期：2024 年 9 月 29 日から 10 月 11 日

対象者：JACET 関東支部会員

実施方法：メールで依頼；web 上で回答

回収率：23 の重複しない回答；関東支部会員

1000 名とすると回収率は 2%

昨年度の回答数は 50、今回賛助会員からの回答

がなかったことから、アンケートの周知方法を改善する必要があると考えています。

今回も支部大会について尋ねました。今回は支部大会の開催形式だけでなく、2025 年度に支部大会を開催するかまで尋ねました。アンケート結果を踏まえ、支部運営研究企画委員で審議した結果、2025 年度の支部大会は行わないという決定に至ったことをご連絡しています。2025 年度には、国際大会が東京の大学で開催され、例年 7 月上旬に支部大会を開催しており、他の時期に支部大会を開催することも難しいと判断したためです。もちろんアンケート結果には支部大会を開催したほうがよいという意見もありましたが、支部運営企画委員の中にもあった、国際大会の運営に支障が出かねないという意見を重視しました。

今回は、支部の運営についてのご意見も尋ねました。「研究企画委員になることによるメリットを感じてもらえる企画。仲間を集めることができるような企画。」（現研究企画委員から）と、「時

### 目次

・ <u>巻頭言</u>	
JACET 関東支部長	山口高領 ..... - 1 -
・ <u>第 2 回支部総会報告</u>	
支部事務局幹事	佐竹由帆 ..... - 2 -
・ <u>支部講演会委員会報告</u>	
支部講演会委員長	青木理香 ..... - 4 -
・ <u>JACET 関東支部企画報告</u>	
山口高領	..... - 5 -

・ <u>支部大会運営委員会からのお知らせ</u>	
支部大会運営委員長	山口高領 ..... - 6 -
・ <u>支部紀要編集委員会からのお知らせ</u>	
支部紀要編集委員長	鈴木健太郎 ..... - 7 -
・ <u>事務局だより</u>	
支部事務局幹事	佐竹由帆 ..... - 7 -

折、研究会等の録画を視聴できるようにしてくださいって、たいへんありがとうございます！」というコメントを頂きました。

今回はさらに、支部運営研究企画委員になることにご興味があるかという項目を設けたところ、4名の先生方に2025年度から加わっていただけすることになりました。

アンケート以外の進展としては、支部大会を数年ぶりに対面で開催できたことがあります。ただ、参加者がそれほど多くなかったことなどから開催方式には検討の継続が必要と考えています。2023年度に続き、英語による基調講演や支部企画を行うこともできました。海外から人をお呼びするとなると招待費用も嵩みますが、今年度は研究企画委員の先生方からのご協力があり、来日時にスケジュールを調整いただくことで、お話を頂くこともできました。

#### 【2021年度から2024年度までの成果】

関東支部としての成果を大きくまとめれば以下となります。

コロナのため、支部大会がオンラインのみの開催が続きましたが、2024年度には対面となりました。事後の動画共有サービスは好評と感じています。

支部企画は、研究手法を主に扱ってきましたが、2024年度は海外の研究者をお呼びしました。

支部講演会も、年に3,4回実施してきました。この4年はZoomによるものであり、多くの先生方に参加していただいています。

支部紀要については、前支部長の藤尾美佐先生（東洋大学）によるweb化の延長線上として、Vol.9からJ-STAGEにも載せることができました。

本ニュースレターも滞りなく、発行することができました。これまで委員長をお引き受けくださいった長田恵理先生（國學院大學）に感謝申し上げます。

ここ数年で関東支部の業務の効率化も進みました。ほぼ月に1回の運営企画会議ではテキパキと議事が進行しつつも、多様な意見を交わすことができました。

私は、運営委員会の先生方に助けていただきながら、JACETの理事会に参加し、関東支部の運営の責任者を務めて参りました。

先生方、この4年間、本当にありがとうございました。

サバティカル中でありながら、運営に携わってくださっている支部運営研究企画委員もいます。是非可能な範囲で関東支部へのお手伝いなどをいただければ幸いです。また、これからも、よりよい運営のために、ご質問、ご意見をお寄せください。

### 第2回支部総会報告

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

2024年11月16日（土）にオンラインで、2024年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2025年度支部事業計画・予算案及び2025年度支部人事についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。予算案については省略致します。

#### ■2025年度支部事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会

2025年度非開催の予定

(2) 講演会及びワークショップの開催

名称：JACET関東支部講演会

日程：2025年6月7日（土）、10月11日（土）

12月13日（土）の3回を予定

場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）

内容：未定

規模：毎回約 60 人

目的： 1) 支部講演会では、講演会を定期的に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。 2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

### (3) 支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日程：2025 年 11 月 8 日（土）の予定

場所：未定

内容：未定

規模：約 60 人

目的： 1) 支部講演会のない月に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。 2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

## II. 『紀要』「支部ニュースレター」等の出版物の刊行（2号事業）

### (1) 『JACET 関東支部紀要』第 13 号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2026 年 3 月 31 日（月）

形態：XML データ（ウェブ掲載）

目的： 1) 広く原稿を募集し、支部会員の研究の活性化と質の向上を図る。 2) 既存の種別に加え、新たな種別の創設などを通して若手研究者の発掘・育成を試みる。以上、査読を充実させることにより、様々な研究分野や研究手法を評価できるように努める。

### (2) 「JACET 関東支部ニュースレター」

日程：2025 年 9 月 30 日（第 25 号）

2026 年 3 月 31 日（第 26 号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページに PDF で掲載）

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行う。

## III. その他（5号事業）

### (1) 支部総会の開催

名称：2025 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会  
<第 1 回>

日程：2025 年 7 月の土曜日を予定

形態：オンライン

目的：2024 年度の支部の事業報告、会計報告及び 2025 年度の支部の事業計画  
<第 2 回>

日程：2025 年 11 月 8 日（土）（関東支部企画と同日）に実施予定

形態：オンライン

目的：2026 年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

### (2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2025 年 4 月 12 日（土）、5 月 10 日（土）\*、6 月 7 日（土）、9 月 13 日（土）\*、10 月 11 日（土）、11 月 8 日（土）、12 月 13 日（土）、2026 年 1 月 10 日（土）\*、3 月 7 日（土）を予定（\*の日程については必要な場合に限って実施する）。

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、計画の立案

## ■2025 年度支部人事■

（2025 年度より任期 2 年間）

支部長（1 名） 山口高領（2025 年 6 月理事会まで）

副支部長（2 名）伊藤泰子、中山夏恵

支部事務局幹事（3 名）佐竹由帆、新井琢磨、鈴木健太郎

支部幹事（4 名）佐竹由帆、青木理香、新井琢磨、鈴木健太郎

支部会計担当者（2名） 辻るりこ、渡辺彰子  
支部研究企画委員（30名）

青木理香、浅利庸子、新井巧磨、伊藤泰子、  
稻田貴子、上田倫史、大井 洋子、大野真機、  
小木曾智子、長田恵理、小張敬之、狩野紀子、  
神村幸藏、河内山晶子、小屋多恵子、佐竹由  
帆、史傑、下山幸成、鈴木彩子、鈴木健太郎、  
関戸冬彦、辻るりこ、中竹真依子、中山夏恵、  
西川恵、登道孝浩、馬場千秋、藤枝豊、山口  
高領、渡辺彰子

日時：2024年10月15日（土）16:00-17:20

講師：鈴木彩子先生（玉川大学）

Alessia Cogo 先生(Editor-in-Chief of ELT  
Journal)

場所：オンライン（Zoom）

題目：異文化間シチズンシップのための ELF コ  
ミュニケーションの意識向上：日本とイギリスの  
事例研究（Raising Awareness of ELF  
Communication for Intercultural Citizenship:  
Case Studies from Japan and the UK）

### 支部講演会委員会報告

支部講演会委員

青木理香（東洋大学）

### ■2024年度下半期活動報告

2024年度下半期は、10月15日に支部講演会  
がオンライン開催された。玉川大学の鈴木彩子先  
生とELT JournalのEditor-in-Chiefである  
Alessia Cogo先生をお招きし、「異文化間シチズ  
ンシップのための ELF コミュニケーションの意  
識向上：日本とイギリスの事例研究（Raising  
Awareness of ELF Communication for  
Intercultural Citizenship: Case Studies from  
Japan and the UK）」というタイトルでご講演い  
ただいた。留学を経験した学生たちのインタビュー  
内容を通して、留学経験や ELF に関する指導  
が学生の意識や理解をどのように変えたのかを  
具体的にご紹介いただき、異文化間シチズンシッ  
プ教育の今後のあるべき姿と可能性について学  
ぶことができる大変有意義な講演会となつた。12  
月にも講演会を予定していたが、諸事情で中止と  
なつた。10月の支部講演会詳細については、後述  
の支部講演会報告・概要を参照されたい。

### ■下半期支部講演会 発表報告・概要

発表概要：Fostering students as global or  
intercultural citizens is a key mission for  
universities worldwide. Understanding the  
nature of communication in English as a lingua  
franca (ELF) can be crucial for this  
development. Since English is commonly used  
for intercultural interactions among  
multilingual speakers, an individual's  
perception of ELF may significantly impact  
their engagement. To address this, some  
tertiary education practitioners have begun to  
explore raising students' awareness of ELF  
communication. This presentation outlines the  
characteristics of ELF communication and  
introduces two case studies from Japan and the  
UK that attempt to raise this awareness. By  
examining potential elements for developing  
ELF awareness across these contexts, the talk  
aims to offer tentative insights into how  
universities might integrate these elements  
into their curricula to better prepare students  
as intercultural citizens.

報告：ご講演では、日本とイギリスの大学における  
ELF 教育の実践例が紹介され、特に留学経験  
が学生の異文化適応や言語意識にどのような影  
響を与えるのかが分析された。日本の事例では、

ELFについて学んだ学生が異文化適応力を高める一方で、留学を通じて自国の文化的アイデンティティをより強く意識するケースも見られた。イギリスの事例では、ネイティブスピーカーのように話すことへのプレッシャーを感じる学生が多くたが、ELFの視点を学ぶことで自信を持ち、積極的にコミュニケーションを取るようになったことが示された。質疑応答では、ELFの概念を英語教育にどのように取り入れるか、また理論と実践をどう結びつけるかについて活発な意見交換が行われた。本講演を通じ、ELFを意識した教育が学生の異文化適応を促し、より実践的な英語指導につながる可能性が改めて示された。(辻りこ・和洋女子大学)

## ■2025年度上半期活動計画

2025年度上半期は、第1回支部講演会を2025年6月7日(土)に、第2回は10月11日(土)、第3回は12月13日(土)に開催予定である。講演者等の詳細は、決定次第JACETメーリングリスト等でお知らせする予定である。

### JACET関東支部企画報告

JACET関東支部

山口 高領(秀明大学)

## ■JACET関東支部企画ワークショップ■

ここ数年、関東支部企画では、研究手法のワークショップを行ってきましたが、本年度は、JACET教育問題研究会との共催によって、Christiane Lütge先生

(Ludwig-Maximilians-Universität München)のご講演を頂きました。JACET SIG「教育問題研究会」の代表である栗原文子先生(中央大学)のご協力により、中央大学茗荷谷キャンパスで行うことができました。

以下に、お知らせ時の発表概要を再掲載し、栗

原先生から頂いた後記をお届けします。

### 発表概要:

In a rapidly evolving digital landscape, English language education plays a pivotal role in equipping learners with the tools needed to navigate and contribute to a globally connected world. The integration of digital global citizenship education and AI literacy into English language education seems essential but presents both unique challenges and valuable perspectives.

Arguably, digital citizenship involves understanding global, ethical issues, such as bias in AI algorithms and privacy concerns. Ideally, education in and for digital spaces enhances students' intercultural and communicative skills, empowering them as global citizens who can engage responsibly in digital spaces across languages and cultures. Navigating these topics sensitively in diverse classrooms requires careful planning and intercultural awareness, particularly for English language educators and teachers. In this context, we will be discussing some recent developments, curricula and tools and try to pinpoint challenges for the future.

### 後記:

2024年11月16日(土)(15:30~17:00)に、JACET関東支部とJACET教育問題研究会の共催で、ミュンヘン大学のクリスチアネ・リュトゲ氏を招聘し、公開講演会を開催した。開催場所は、中央大学茗荷谷キャンパス(対面のみ)で、当日は15名以上の参加者があった。演題は、Digital Global Citizenship and AI Literacy—Challenges and Perspectives for English Language Education—(デジタル・グローバル・

シティズンシップと AI リテラシー・英語教育の課題と展望)であった。リュトゲ氏は、ミュンヘン大学の外国語学部の教授で、英語教授法・教師教育を専門としているが、近年、外国語教育におけるデジタル・シティズンシップ教育の研究に従事している。本講演でも、リュトゲ氏を中心となって行われたアイルランド、ラトビア、ポルトガル、イタリア、ドイツの五カ国によるエラスムス+プロジェクト (DiCE-Lang プロジェクト) の開発と成果が中心的話題であった。講演では、外国語教育において学習者が、AI やデジタル技術を安全に責任をもって活用しながら、様々な背景の人々と積極的にコミュニケーションを取り、学び合うために必要な 5 つの側面(コミュニケーション、内容、アイデンティティ、異文化/超文化間的視点、批判的思考/省察) から成るモデルと、モデルに準拠して開発された 50 の Teaching Units (指導ユニット) が紹介された。これらの基盤には、欧州評議会が発表した「民主的な文化への能力参考枠」と「デジタル・シティズンシップ教育ハンドブック」がある。人権の尊重、民主主義、文化の多様性を共通の価値観として、学習者の批判的理解や、省察スキルを養うための実践には、ドイツとウクライナの学生の交流なども含まれ、学生が平和について意見交換し、デジタル上で自分のメッセージを発信する過程が紹介された。外国語教育とデジタル技術はますます緊密になることが予想されるが、デジタル・シティズンシップ教育の観点を取り入れた指導は日本においても重要な課題であり、外国語教育における指導法の開発を探る上で、示唆に富む内容であった。

**支部大会運営委員会からのお知らせ**  
支部大会運営委員長  
山口高領（秀明大学）

卷頭言でお知らせしましたとおり、2025 年度は

支部大会を開催しませんが、支部会員のみなさまからアンケート経由で頂いたご意見を以下に共有します。2026 年度以降の支部大会の参考になればと願っております。

【支部大会で希望するテーマやお呼びしたい方】

- ・ 部分的でもよいので、日進月歩の AI 関連の新情報
- ・ 生成 AI が教育上大きな変革をもたらすのは周知の事実だが、まだ現在のスマホと同じようにみんなが気軽に活用できるレベルにはなっていないと思われる。4 技能 5 領域で学習成果をだすためにこれから英語教育で新技術をどのように活用できるのかを実践とともに示す内容
- ・ 言語学と学習英文法の接点
- ・ CLIL の実践研究報告・モチベーション研究
- ・ 日々の授業でどう英語力をつけるのか、英語力とは何かに関連するテーマ
- ・ アクションリサーチやリフレクティブプラクティス
- ・ 特別な環境がなくてもできる PBL を実践している人で、なおかつ新技術をさりげなく使っている人がいれば、話を聞いてみたい
- ・ Rod Ellis
- ・ 高校の名物教師

**支部紀要編集委員会からのお知らせ**

支部紀要編集委員長

鈴木健太郎（北海道教育大学）

2024 年度の『JACET 関東支部紀要 Vol. 12』では、研究論文 3 本、実践報告 1 本、研究ノート 1 本の計 5 本の原稿を掲載することとなりました。原稿は J-Stage または支部 HP からアクセスできますので、ぜひお読みいただければと思います。

私自身、投稿者や査読者の方とのやり取りを通して、1本の論文の背後にあるさまざまな人の想いを間近で見ることができ、大変貴重な経験となりました。それと同時に、その想いをうまく形にすることの難しさを感じ、委員長としての責任の重さを感じる1年でもありました。

さて、今年度をもって前委員長で現副委員長の鈴木彩子先生（玉川大学）は紀要編集委員をご退任されます。委員長時代を含めて8年間、常にお世話になりました。私が委員長になってからも迅速で的確なアドバイス、そして温かくフレンドリーな励ましのお言葉をくださいました。来年度からは不安もありますが、頼もしいメンバーとともにこれまでのよい流れを引き継ぐとともに新たな形を模索していかなければと思います。

来年度からもメンバー全員で力を合わせて、投稿、査読、編集、公開まで迅速でていねいな作業を心がけていきたいと思います。2025年度は『JACET 関東支部紀要 Vol. 13』の発行を予定しております。多くの方からの投稿をお待ちしております（締切は2025年8月31日）。今後とも紀要編集委員会の活動をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## JACET-Kanto Newsletter 第24号

発行日：2025年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、藤尾美佐、下山幸成

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

青山学院大学 佐竹由帆 研究室

### 事務局だより

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

### ■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局 ([jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)) へ変更届を提出してくださいますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。